

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3098035号
(U3098035)

(45) 発行日 平成16年2月19日 (2004. 2. 19)

(24) 登録日 平成15年9月10日 (2003. 9. 10)

(51) Int. Cl.⁷
A O 1 K 29/00F 1
A O 1 K 29/00

評価書の請求 未請求 請求項の数 14 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 実願2003-2966 (U2003-2966)
(22) 出願日 平成15年5月23日 (2003. 5. 23)(73) 実用新案権者 391001457
アイリスオーヤマ株式会社
宮城県仙台市青葉区五橋二丁目12番1号
(74) 代理人 100081318
弁理士 羽切 正治
(74) 代理人 100007983
弁理士 笹川 拓
(74) 代理人 100122541
弁理士 小野 友彰
(72) 考案者 塩田 真千子
宮城県角田市小坂字土瓜1番地 アイリス
オーヤマ株式会社 角田工場内

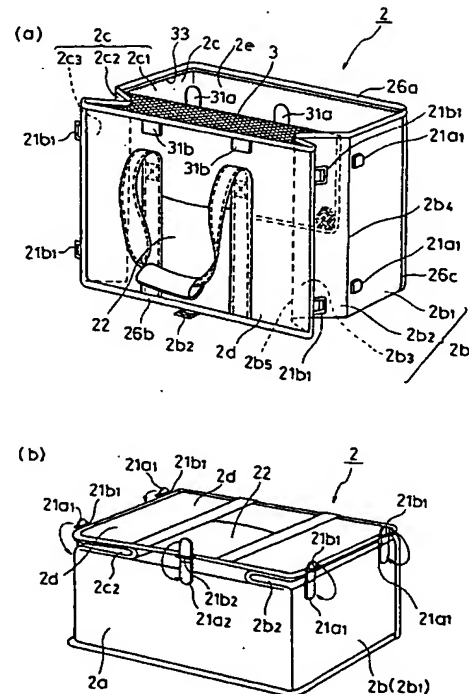
(54) 【考案の名称】 ペット用ケース

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 内部に犬や猫等のペットを収容して、車両の座席に固定する場合に適した大きさ又は持ち運びに適した大きさのいずれにも変更が可能なペット用ケースを提供すること。

【解決手段】 ペット用ケースは、箱体2は、少なくとも底面2a、側面2b、2c、2d、側面2eとを有する。底面2aは略シート状であり、側面2bは、底面2aと交差する方向に二つ折にする二つ折面2b1と、二つ折面2b1に隣接して設けられて側面2bを底面2aに交差する方向に四つ折にする四つ折面2b2、2b3とからなり、側面2cもこれと同様の構成となる。側面2eの外側には、シートベルト挿通部25が設けられている。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも底面及び側面を有する箱体で構成され、
前記側面のうち、少なくとも対向する 1 組の側面には、前記底面と交差する方向に折目部が形成された折面を有し、前記折面の折り曲げ若しくは展開により前記箱体の大きさを変更可能な構成としたこと
を特徴とするペット用ケース。

【請求項 2】

前記箱体は、前記箱体の内側に装着が可能な中敷を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 3】

前記底面は、略シート状であることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載のペット用ケース。

【請求項 4】

前記箱体は、ペット用ケースを所定の場所に固定可能な固定手段を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 5】

前記対向する 1 組の側面以外の対向する側面のうち 1 つの側面を固定側面とし、該固定側面と対向する側面を収縮側面とした場合に、前記固定側面側に前記固定手段を設けたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 6】

前記対向する 1 組の側面には、底面と交差する方向に複数の折目部が形成されて折り曲げ可能な複数の折面を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 5 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 7】

前記折面は、前記対向する 1 組の側面を底面と交差する方向に二つ折りにする二つ折面と、該二つ折面に隣接して設けられて前記対向する 1 組の側面を底面と交差する方向に四つ折りにする四つ折面とで構成されることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 6 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 8】

前記箱体は、前記折面の折り曲げ時に折面の折り曲げ状態を保持可能な保持部材を備えたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 7 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 9】

前記保持部材は、前記対向する 1 組の側面以外の対向する側面のうち 1 つの側面を固定側面とし、該固定側面と対向する側面を収縮側面とした場合に、前記折面に設けられた第 1 の連結部材と、収縮側面側に設けられて第 1 の連結部材と連結可能な第 2 の連結部材からなることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 8 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 10】

前記中敷は、略面状で折曲部を有し、前記箱体の大きさに併せて折曲げが可能な構成としたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 9 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 11】

前記中敷は係合部材を備え、前記係合部材は中敷に補助シートを係合可能な構成としたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 10 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 12】

前記係合部材は、第 1 の係合部と、該第 1 の係合部と係合可能な第 2 の係合部とからなり、前記第 1 の係合部及び第 2 の係合部は、前記中敷に補助シートを係合可能な構成としたことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 11 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 13】

前記箱体は、該箱体の内部を覆う天面を有し、前記天面の周縁部には、前記箱体と着脱可

10

20

30

40

50

能な着脱部材を有することを特徴とする請求項 1 乃至請求項 1 2 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【請求項 1 4】

前記天面は、前記対向する 1 組の側面以外の対向する側面のうち 1 つの側面を固定側面とし、該固定側面と対向する側面を収縮側面とした場合に、収縮側面側と結合していることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 1 3 のうち、いずれか 1 に記載のペット用ケース。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は、内部に犬や猫等のペットを収容して、車両の座席に固定する場合に適した大きさ又は持ち運びに適した大きさのいずれにも変更が可能なペット用ケースに関する。 10

【0002】

【従来の技術】

従来、犬や猫等のペットを自動車などの車両に乗せる場合には、車内に汚損防止用のペット用ケースを設置してこの中にペットを収容することが行われており、このようなペット用ケースとしては、特開 2002-159239 号公報（特願 2000-361710 号）に掲載されているペット用車載ケースのようなものがある（特許文献 1 参照）。特開 2002-159239 号公報の図 6、図 7 及び図 10 に示すように、ペット用車載ケース 1 は、内部にペットを収容可能で展開及び組立てが可能な箱体 2 と、箱体 2 を車両の座席 50 に固定可能な固定部材 3（又は 23、33）を有している。 20

【0003】

前記ペット用車載ケース 1 を車両の座席 50 に取り付ける場合は、特開 2002-159239 号公報の図 6 に示すように、底面と側面によりペットの収容空間を形成するように箱体 2 を組立て、同図 7 に示すように、箱体 2 を座席 50 に載置して固定部材 3（又は 23、33）により座席に固定する。

【0004】

また、ペットを汚損防止用のペット用ケースに収容したまま車外に持ち運ぶこともしばしば行われており、このようなペット用ケースとしては、特開平 9-103213 号公報（特願平 7-300402 号）に掲載されているペットパックのようなものもある（特許文献 2 参照）。特開平 9-103213 号公報の図 1、図 4 及び図 5 に示すように、ペットパックは、ペットを収容する袋 1 と、袋 1 を人の首に係止するベルト 2 と、袋 1 を人の胸に固定するベルト 3 と、袋 1 の背面に設けられて車両のシートベルトを挿通可能な縫いつけ部分 5 とを有している。 30

【0005】

前記ペットパックを車両の座席に取り付ける場合は、特開平 9-103213 号公報の図 5 に示すように、袋 1 を車両の座席に載置して、袋 1 の背面に設けられた縫いつけ部分 5 にシートベルトを挿通して袋 1 を座席に固定する。

【0006】

前記ペットパックを、袋 1 にペットを収容したまま持ち運ぶ場合は、特開平 9-103213 号公報の図 4 に示すように、ベルト 2 を人の首に係止し、ベルト 3 を人の胸に固定する。 40

【0007】

【特許文献 1】

特開 2002-159239 号公報（図 6、図 7、図 10）

【特許文献 2】

特開平 9-103213 号公報（図 1、図 4、図 5）

【0008】

【考案が解決しようとする課題】

しかして、ペット用ケースは、収納の便宜のため展開及び折り畳みが自在であり、車両の座席に載置する場合は安定する構造で構成し、持ち運びをする場合は持ち運びの便宜上コ 50

コンパクトな大きさであることが望ましい。

【0009】

しかしながら、前記ペット用車載ケース1（特許文献1参照）は、箱体2の大きさを変更することはできず、箱体2の内部にペットを収容したままペット用車載ケース1を車外に持ち運びをするには大きすぎるため、持ち運びをする場合には不便である。

【0010】

また、前記ペットバック（特許文献2参照）は、ペットの収容部が袋1であるため、車両の座席に載置した場合、袋1が前後左右に揺動しやすく固定状態が不安定であり、ペットにストレスを与えてしまう。

【0011】

そこで、本考案は、上記のような課題を解決するためになされたものであって、側面の一部を折り曲げ又は展開することにより、持ち運び用又は車載用のいずれの用途にも応じた大きさに変更することが可能なペット用ケースを提供することを目的とするものである。

【0012】

【課題を解決するための手段】

そこで、本考案のペット用ケースは、少なくとも底面及び側面を有する箱体で構成され、前記側面のうち、少なくとも対向する1組の側面には、前記底面と交差する方向に折目部が形成された折面を有し、前記折面の折り曲げ若しくは展開により前記箱体の大きさを変更可能な構成とした。また、前記箱体は、前記箱体の内側に装着が可能な中敷を備えた。また、前記底面は、略シート状である。また、前記箱体は、ペット用ケースを所定の場所に固定可能な固定手段を有する。また、前記対向する1組の側面以外の対向する側面のうち1つの側面を固定側面とし、該固定側面と対向する側面を収縮側面とした場合に、前記固定側面側に前記固定手段を設けた。また、前記対向する1組の側面には、底面と交差する方向に複数の折目部が形成されて折り曲げ可能な複数の折面を有する。また、前記折面は、前記対向する1組の側面を底面と交差する方向に二つ折りにする二つ折面と、該二つ折面に隣接して設けられて前記対向する1組の側面を底面と交差する方向に四つ折りにする四つ折面とで構成される。また、前記箱体は、前記折面の折り曲げ時に折面の折り曲げ状態を保持可能な保持部材を備えた。また、前記保持部材は、前記対向する1組の側面以外の対向する側面のうち1つの側面を固定側面とし、該固定側面と対向する側面を収縮側面とした場合に、前記折面に設けられた第1の連結部材と、収縮側面側に設けられて第1の連結部材と連結可能な第2の連結部材からなる。また、前記中敷は、略面状で折曲部を有し、前記箱体の大きさに併せて折曲げが可能な構成とした。また、前記中敷は係合部材を備え、前記係合部材は中敷に補助シートを係合可能な構成とした。また、前記係合部材は、第1の係合部と、該第1の係合部と係合可能な第2の係合部とからなり、前記第1の係合部及び第2の係合部は、前記中敷に補助シートを係合可能な構成とした。また、前記箱体は、該箱体の内部を覆う天面を有し、前記天面の周縁部には、前記箱体と着脱可能な着脱部材を有する。また、前記天面は、前記対向する1組の側面以外の対向する側面のうち1つの側面を固定側面とし、該固定側面と対向する側面を収縮側面とした場合に、収縮側面側と結合している。

【0013】

【考案の実施の形態】

以下、本考案によるペット用ケースの実施の形態について、図1乃至図3を参照して説明する。図1（a）は、本考案によるペット用ケースの側面の総ての折面を展開して箱体の大きさを大きくしたペット用ケースと中敷の組み合わせ状態を示す斜視図、（b）は、本考案によるペット用ケースの右側面のA-A断面図、図2（a）は、本考案によるペット用ケースに装着される中敷の折曲げ状態を示す斜視図、（b）は、中敷に補助シートを固定する状態を示す斜視図、図3は、本考案によるペット用ケースを車両の座席に固定した状態を示す斜視図及び座席の背部側からみた背面斜視図、図4（a）は、本考案によるペット用ケース側面の四つ折面を折り曲げ又は展開してペット用ケースの大きさを変更する操作手順を示す斜視図、（b）は、第1の連結部材と第2の連結部材の連結状態を示す斜視

10

20

30

40

50

図である。

【0014】

図1(a)に示すように、ペット用ケース1は、上面が開口した箱状に形成されて犬や猫等のペットを収容する箱体2と、箱体2内に装着可能な中敷4とからなる。以下、まず箱体2の詳細について説明する。

【0015】

図1(a)及び図3に示すように、箱体2は、全体が直方体形状で構成され、底面2a、側面2b(右側面)、側面2c(左側面)、側面2d(前側面)、側面2e(後側面)とを有する。

【0016】

底面2aは、略シート状であり、折り畳みが自在に構成されている。

【0017】

図1(a)及び図3に示すように、側面2b(右側面)は、底面2aと交差する方向に二つ折にする二つ折面2b1と、二つ折面2b1に隣接して設けられて側面2b(右側面)を底面2aに交差する方向に四つ折にする四つ折面2b2、2b3とからなる。

【0018】

図1(a)に示すように、側面2b(右側面)の二つ折面2b1は側面2e(後側面)及び四つ折面2b2に隣接して設けられ、また四つ折面2b2は二つ折面2b1及び四つ折面2b3に隣接して設けられ、さらに四つ折面2b3は四つ折面2b2及び側面2d(前側面)に隣接して設けられており、二つ折面2b1及び四つ折面2b2との隣接部には折目部2b4が形成され、四つ折面2b2及び四つ折面2b3との隣接部には折目部2b5が形成されている。なお、本実施の形態では、二つ折面2b1、四つ折面2b2、四つ折面2b3の順序で隣接して設けられているが、四つ折面2b2、二つ折面2b1、四つ折面2b3の順序で構成してもよく、これらに限るものではない。

【0019】

図1(a)に示すように、側面2b(右側面)に対向して設けられる側面2c(左側面)は、側面2b(右側面)と同様に、二つ折面2c1、四つ折面2c2、2c3からなる。なお、本実施の形態では、側面2c(左側面)の二つ折面2c1、四つ折面2c2、2c3は、側面2b(右側面)の二つ折面2c1、四つ折面2c2、2c3と各々対向して設けられているが、各々が対向していない構成としてもよい。

【0020】

側面2b(右側面)の折目部2b4を山折り、折目部2b5を谷折りにして側面2b(右側面)を折り曲げ、同様に折目部2b4と対向する側面2c(左側面)の折目部(図示せず)を山折り、折目部2b5と対向する側面2c(左側面)の折目部(図示せず)を谷折りにして側面2c(左側面)を折り曲げると、対向している側面2d(前側面)及び側面2e(後側面)の距離が収縮するので、箱体2の側面2b(右側面)及び側面2c(左側面)の幅は、折曲げない状態の略2分の1の幅にすることができる。なお、側面2d(前側面)を収縮側面、側面2e(後側面)を固定側面ともいう。また、側面2b(右側面)の折目部2b4を谷折りにして側面2b(右側面)を折り曲げ、折目部2b4と対向する側面2c(左側面)の折目部(図示せず)を谷折りにして側面2c(左側面)を折り曲げると、箱体2を完全に折り畳むことができる。

【0021】

図1(a)に示すように、側面2d(前側面)の外側には、ポケット22と、吊り部23aが設けられており、吊り部23には握り部23cが設けられている。

【0022】

図3の背面斜視図に示すように、側面2e(後側面)の外側には、シートベルト挿通部25と、吊り部23b(図示せず)が設けられている。

【0023】

本実施の形態では、側面2dの(前側面)及び側面2e(後側面)には、側面2b(右側面)及び側面2c(左側面)のように折目部及び折面を有していないが、側面2b(右側

10

20

30

40

50

面) 及び側面 2 c (左側面) と同じようにして折目部及び折面を有する構成としてもよい。

【0024】

図 1 (b) に示すように、箱体 2 の側面 2 b (右側面) は、基材 2 b 1 a、2 b 2 a、2 b 3 a を外側の被覆部材 2 b 1 0 と内側の被覆部材 2 b 1 1 によって被覆し、基材 2 b 1 a、2 b 2 a、2 b 3 a と内側の被覆部材 2 b 1 1 との間には弾性材 2 b 1 b、2 b 2 b、2 b 3 b が介装されており、ペットに対する衝撃を吸収することができる。なお、被覆部材は、織布、不織布、紙材、合成樹脂、合成繊維等の材料を適宜選択でき、基材は、所定の剛性を有するものであれば、合成樹脂、紙材、木材及び金属等の種々の素材を選択可能である。また、弾性材としてはウレタン樹脂等を適宜選択できる。

10

【0025】

図 1 (b) に示すように、基材 2 b 1 a 及び弾性材 2 b 1 b と、基材 2 b 2 a 及び弾性材 2 b 2 b との間は、外側の被覆部材 2 b 1 0 及び内側の被覆部材 2 b 1 1 とが縫合されて折目部 2 b 4 を形成し、基材 2 b 2 a 及び弾性材 2 b 2 b と、基材 2 b 3 a 及び弾性材 2 b 3 b との間は、外側の被覆部材 2 b 1 0 及び内側の被覆部材 2 b 1 1 とが縫合されて折目部 2 b 5 を形成している。側面 2 b (右側面) と対向する側面 2 c (左側面) も、側面 2 b (右側面) と同様に構成されている。

【0026】

本実施の形態では、箱体 2 の側面 2 d (前側面) 及び側面 2 e (後側面) は折目部及び折面を有しないため、側面 2 b (右側面) のように基材を分割して構成する必要はなく、一つの基材を外側の被覆部材と内側の被覆部材によって被覆し、前記基材と内側の被覆部材との間に弾性材が介装されている (図示せず)。なお、側面 2 d の (前側面) 及び側面 2 e (後側面) に、側面 2 b (右側面) 及び側面 2 c (左側面) と同様にして折目部及び折面を有する構成とする場合は、側面 2 b (右側面) のように基材を分割して構成し、外側の被覆部材及び内側の被覆部材とを縫合して折目部を形成するようにする (図示せず)。

20

【0027】

底面 2 a (図示せず)、側面 2 b (右側面)、側面 2 c (左側面)、側面 2 d (前側面) 及び側面 2 e (後側面) の各々隣接部には、補強縁部 2 6 a、2 6 b、2 6 c が設けられて縫製されている。

【0028】

図 1 (a) に示すように、側面 2 b (右側面) の二つ折部 2 b 1 には第 1 の連結部材 2 1 a 1 が設けられており、側面 2 b (右側面) の四つ折面 2 b 3 に隣接する側面 2 d (前側面) には、第 1 の連結部材 2 1 a 1 と連結可能な第 2 の連結部材 2 1 b 1 が設けられている。側面 2 c (左側面) の二つ折部 2 c 1 にも同様の第 1 の連結部材 2 1 a 1 が設けられており、側面 2 c (左側面) の四つ折面 2 c 3 (図示せず) に隣接する側面 2 d (前側面) には、第 1 の連結部材 2 1 a 1 と連結可能な第 2 の連結部材 2 1 b 1 が設けられている。なお、本実施の形態では、第 1 の連結部材 2 1 a 1 及び第 2 の連結部材 2 1 b 1 は、各々 2 対ずつ離間して設けているが、個数はこれに限られるものではない。

30

【0029】

また、図 4 (b) に示すように、底面 2 a の中央部には第 1 の連結部材 2 1 a 2 が設けられており、底面 2 a に隣接する側面 2 d (前側面) には、第 1 の連結部材 2 1 a 2 と連結可能な第 2 の連結部材 2 1 b 2 が設けられている。なお、本実施の形態では、一对の第 1 の連結部材 2 1 a 2 及び第 2 の連結部材 2 1 b 2 を設けているが、ペットの大きさに応じて箱体 2 の大きさが大きくなれば、二対以上で構成するようにしてもよい。

40

【0030】

第 1 の連結部材 2 1 a 1、2 1 a 2 及び第 2 の連結部材 2 1 b 1、2 1 b 2 によって固定する方法は適宜設定可能であり、例えば、図 4 (b) に示すように、第 1 の連結部材 2 1 a 1、2 1 a 2 の基端部近傍及び先端部にいわゆるマジックテープ (登録商標) を設け、第 2 の連結部材 2 1 b 1、2 1 b 2 を環状に構成するようにしてもよく、その他、第 1 の連結部材 2 1 a 1、2 1 a 2 の先端部及び第 2 の連結部材 2 1 b 1、2 1 b 2 にホックを

50

設けて構成してもよく、これらに限定されるものではない。

【0031】

図1(a)に示すように、側面2d(前側面)の上部には、箱体2の内部を覆う天面3が設けられており、天面3は網目状の孔部3aを有している。天面3の周部3b及び箱体2の側面2b、2c、2eの上端部には、天面着脱部材33が形成され、本実施の形態では天面着脱部材33はファスナからなり、ファスナを閉じることによって箱体2の内部を天面3で閉塞することができるようになっている。図4(a)に示すように、天面3の長手方向の中央部近傍には、2つの第1の天面係合部材31aが離間して設けられており、側面2d(前側面)の上縁部には天面係合部材31aと係合可能な2つの第2の天面係合部材31bが離間して設けられている。第1の天面係合部材31a及び第2の天面係合部材31bによって係合する方法は適宜設定可能であり、例えば、図4(a)に示すように、第1の天面係合部材31a及び第2の天面係合部材31bにいわゆるマジックテープ(登録商標)を設けて構成するようにしてもよく、その他、第1の天面係合部材31aの先端部及び第2の天面係合部材31bにホックを設けて構成してもよく、これらに限定されるものではない。

10

【0032】

図3に示すように、箱体2には、ペットを箱体2内に係留する係留部材24が設けられている。係留部材24は、箱体2の内側に固定されている带状部材24aと、带状部材24aの先端に設けられてペットに対して連結される連結部材24bと、带状部材24aの長さを調節する調節部24cとを有する。本実施の形態では、連結部材24bは、ナスカンと称される開閉自在な環状の部材からなり、ペットの首輪等に設けられたリング部材(図示せず)に対して着脱自在であるが、これに限定されるものではない。

20

【0033】

次に、箱体2に装着する中敷4について、図2を参照して説明する。図2に示すように、中敷4は略面状で構成されており、箱体2の底面2a(図示せず)の内法寸法と合致する中敷本体41と、折返部42a、42bと、基材43a、43bとを有する。中敷本体は、中敷本体表面41a及び中敷本体裏面41bからなり、中敷本体表面41a及び中敷本体裏面41bの間には、弾性材(図示せず)が介装されている。なお、弾性材としてはウレタン樹脂等を適宜選択できる。

【0034】

折返部42a、42bは、中敷本体裏面41bの短手方向の側辺部に設けられている。図2(b)に示すように、中敷本体4と折返部42a、42bとは、中敷本体4の長手方向に中央部を縫製して折曲部46を形成し、また、中敷本体4の周縁部は補強縁部44が設けられて縫製され、ポケット42a1、42a2、42b1、42b2が形成されている。図2(b)に示すように、ポケット42a1、42b1には基材43a、ポケット42a2、42b2には基材43bが收容されており、図2(a)に示すように、中敷4を折曲部46において折り曲げると、中敷4の短手方向の幅は、折り曲げない状態の略2分の1の幅にすることが可能である。なお、中敷本体41及び折返部42a、42bは、織布、不織布、紙材、合成樹脂、合成繊維等の材料を適宜選択でき、基材43a、43bは、所定の剛性を有するものであれば、合成樹脂、紙材、木材及び金属等の種々の素材を選択可能である。

30

40

【0035】

折返部42a、42bには、係合部材45が形成されている。係合部材45は、本実施の形態では、折返部42a、42bに設けられた舌片45aと、舌片45aの先端に設けられた第1の係合部45a2と、折返部42a、42bに設けられて第1の係合部45a2と係合可能な第2の係合部45bによって構成され、中敷4の略四隅に配置して設けられている。係合部材45によって、補助シート60(吸水シート)を係合可能である。

【0036】

箱体2の底面2a(図示せず)は略シート状であって平面強度を保てないため、中敷4は、箱体2の内部に装着して底面2aの補強材としての機能するとともに、補助シート60

50

を内部に確実に設置するための部材として機能する。

【 0 0 3 7 】

次に、上記の構成からなるペット用ケース 1 の使用形態について、図 1 乃至図 6 を参照して説明する。図 5 は、本考案によるペット用ケースの側面の四つ折面を折り曲げて箱体の大きさを小さくしたペット用ケースと中敷の組み合わせ状態を示す斜視図、図 6 は、本考案によるペット用ケースの側面の二つ折面を折り曲げて完全に折り畳まれたペット用ケースの斜視図である。

【 0 0 3 8 】

まず、本考案によるペット用ケース 1 を自動車等の車両の座席に固定して使用する工程について説明する。図 1 及び図 3 に示すように、ペット用ケース 1 の箱体 2 については、側面 2 b (右側面) 及び側面 2 c (左側面) に形成されている折目部 2 b 4、2 b 5 (側面 2 c の折目部は図示せず) は折り曲げない状態であり、側面 2 b (右側面) 及び側面 2 c (左側面) を完全に展開させる。この場合、第 1 の連結部材 2 1 a 0 1、2 1 b 0 1 と第 2 の連結部材 2 1 a 0 2、2 1 b 0 2 は連結が解除されている。

【 0 0 3 9 】

また、図 1 (a) に示すように、中敷 4 は、折曲部 4 6 を折り曲げず展開させた状態で、中敷本体表面 4 1 a を上方向にして箱体 2 の開口部から嵌挿させ、底面 2 a (図示せず) に装着する。中敷本体表面 4 1 a を上方向にして装着することによって、中敷本体 4 1 内に設けられた弾性材 (図示せず) がペットに対する衝撃を吸収することができる。図 2 (b) に示すように、吸水シートなどの補助シート 6 0 を中敷本体表面 4 2 a に周回させて補助シート 6 0 の端部を中敷本体裏面 4 2 b 側に折り返し、補助シート 6 0 の側辺部を係合部材 4 5 によって中敷 4 に係合させることによって、補助シート 6 0 を係合させたまま中敷 4 を箱体 2 に装着することができ、例えば、ペットがペット用ケース 1 の内部で排泄をした場合であっても、ペット用ケース 1 の内部の汚損を防止することができる。

【 0 0 4 0 】

図 3 に示すように、側面 2 b (右側面) 及び側面 2 c (左側面) を完全に展開させたペット用ケース 1 を、自動車等の座席 5 0 の座部 5 0 a に載置させ、図 3 の座席の背部側からみた背面斜視図に示すように、シートベルト 5 1 の肩側ベルト 5 1 a 及び腰側ベルト 5 1 b を、側面 2 e (後側面) の外側に設けられたシートベルト挿通部 2 5 に挿通して、固定金具 5 1 c を所定のシートベルト固定部 (図示せず) に固定する。シートベルト 5 1 をシートベルト挿通部 2 5 に挿通してペット用ケース 1 を固定すれば、座席 5 0 上のペット用ケース 1 を密着固定することが可能であり、しかも座席 5 0 が有するシートベルト 5 1 を利用可能であることから、ペット用ケース 1 全体の低コスト化を達成することができる。

【 0 0 4 1 】

また、図 3 に示すように、係留部材 2 4 をペットの首輪等 (図示せず) と結合可能であるので、ペットがペット用ケース 1 から脱出することを防止することができ、さらに、係留部材 2 4 の調節部 2 4 c を調節することにより、ペットの大きさや該ペット用ケースの使用状況に対応した最適な長さを設定することが可能である。また、天面 3 を天面着脱部材 3 3 (ファスナ) によって箱体 2 に係合させて箱体 2 の内部を閉塞することができるので、これによってもペットがペット用ケース 1 から脱出することを防止でき、しかも、天面 3 は網目状の孔部 3 a を有しているので、天面 3 によって箱体 2 の内部を閉塞した場合であっても、箱体 2 の内部との通気性及び照度が確保でき、内部を観察可能である。なお、本実施の形態では、天面 3 は網目状の孔部 3 a を有するがこれに限定されるものではなく、通気性及び照度が確保でき、内部を観察可能な部材を適宜選択可能である。

【 0 0 4 2 】

このようにして、ペット用ケース 1 を車両の座席 5 0 に載置した場合、ペット用ケース 1 は略直方体形状であって、底面 2 a も広いため、運転速度の変化やペット用ケース 1 内に収容したペットの動きによってもペット用ケースは揺動しにくく安定した固定状態を維持でき、ペットへの負担も軽減することができる。

【 0 0 4 3 】

10

20

30

40

50

次に、本考案によるペット用ケース 1 を車両の座席に固定する使用状態から持ち運び用の大きさに変更する工程について説明する。図 3 に示すように、ペット用ケース 1 が車両の座席 50 に固定されている状態において、箱体 2 の底面 2 a に装着されている中敷 4 を取り外して、底面 2 a を折り畳み自在にする。

天面 3 を、天面着脱部材 3 3 により、側面 2 b (右側面) の四つ折面 2 b 2、2 b 3 及び側面 2 c (左側面) の四つ折部 2 c 2、2 c 3 の上縁部と係合させる。

【0044】

図 4 (a) に示すように、ペット用ケース 1 の箱体 2 について、側面 2 b (右側面) の折目部 2 b 4 を山折り、折目部 2 b 5 を谷折りにして四つ折面 2 b 2、2 b 3 を箱体 2 の内側に折り曲げる。同様に、折目部 2 b 4 と対向する側面 2 c (左側面) の折目部 (図示せず) を山折り、折目部 2 b 5 と対向する側面 2 c (左側面) の折目部 (図示せず) を谷折りにして四つ折面 2 c 2、2 c 3 を箱体 2 の内側に折り曲げる。このようにすると、側面 2 d (収縮側面) が、これと対向している側面 2 e (固定側面) 側に向って移動し、側面 2 d (収縮側面) と側面 2 e (固定側面) との距離が収縮する。

【0045】

次に、図 4 (b) に示すように、第 1 の連結部材 2 1 a 1 を第 2 の連結部材 2 1 b 1 に連結させることにより、側面 2 b (右側面) の四つ折部 2 b 2、2 b 3 の折り曲げ状態、及び、側面 2 c (左側面) の四つ折面 2 c 2、2 c 3 の折り曲げ状態を保持することができる。また、第 1 の連結部材 2 1 a 1 を第 2 の連結部材 2 1 b 2 に連結させることにより、四つ折面 2 b 2、2 b 3、2 c 2、2 c 3 の折り曲げによって生じた底面 2 a の撓みをなくして底面 2 a の平面強度を向上させることができる。また、図 4 (a) に示すように、天面 3 に設けられた第 1 の天面係合部材 3 1 a を、側面 2 d (前側面) の上縁部に設けられた第 2 の天面係合部材 3 1 b と係合させることにより、四つ折面 2 b 2、2 b 3、2 c 2、2 c 3 の折り曲げによって生じた天面 3 の撓みをなくして、天面 3 と側面 2 e (後側面) 及び二つ折面 2 b 1、2 c 1 との着脱を容易にすることができる。

【0046】

図 4 (b) に示すように、ペット用ケース 1 の側面 2 b、2 c の四つ折面 2 b 2、2 b 3、2 c 2、2 c 3 を折り曲げると、底面 2 a の短手方向の幅は、折り曲げない状態の略 2 分の 1 の幅になるため、図 5 に示すように、中敷 4 を折曲部 4 6 において中敷本体表面 4 1 a が外側になるようにして折り曲げ、中敷 4 の短手方向の幅を、折り曲げない状態の略 2 分の 1 の幅にしてから、四つ折面 2 b 2、2 b 3、2 c 2、2 c 3 を折り曲げた箱体 2 の開口部から嵌挿させ、底面 2 a に装着する。また、図 2 (b) に示すように、吸水シートなどの補助シート 60 を中敷本体表面 4 2 a に周回させて補助シート 60 の端部を中敷本体裏面 4 2 b 側に折り返し、補助シート 60 の側辺部を係合部材 4 5 によって中敷 4 に係合させてから、中敷 4 を折曲部 4 6 において中敷本体表面 4 1 a が外側になるようにして折り曲げ、補助シート 60 を係合させたまま中敷 4 を箱体 2 に装着することができるので、例えば、ペットがペット用ケース 1 の内部で排泄をした場合であっても、ペット用ケース 1 の内部の汚損を防止することができる。また、中敷 4 を折曲部 4 6 において中敷本体表面 4 1 a が外側になるようにして折り曲げ、箱体 2 に装着することによって、中敷本体 4 1 内に設けられた弾性材 (図示せず) がペットに対する衝撃を吸収することができる。

【0047】

図 3 に示すように、シートベルト 5 1 をシートベルト挿通部 2 5 から解除すれば、座席 50 上のペット用ケース 1 の固定状態を解除可能であり、吊り部 2 3 a、2 3 b を肩に掛ける等してペット用ケース 1 の持ち運びをすることができる。

【0048】

このように、ペット用ケース 1 の側面 2 b、2 c の四つ折面 2 b 2、2 b 3、2 c 2、2 c 3 を折り曲げると、側面 2 b (右側面) 及び側面 2 c (左側面) の幅は折り曲げない状態の略 2 分の 1 の幅になり、また、底面 2 a の短手方向の幅も折り曲げない状態の略 2 分の 1 の幅になるため、ペット用ケース 1 の箱体 2 の大きさ (容量) が全体として略 2 分の 1 の大きさ (容量) となり、持ち運びの利便性を向上できる。さらに、図 3 に示すように、

シートベルト挿通部 25 は、座席 50 の背部 50b に当接される側面 2e (後側面) 側に設け、側面 2e (後側面) と対向する側面 2d (前側面) 側に四つ折面 2b2、2b3、2c2、2c3 を設けているので、シートベルト 51 をシートベルト挿通部 25 に挿通して箱体 2 を座席 50 に固定した状態において、箱体 2 の内部にペットを収容したまま前記ペットを側面 2e (後側面) に寄せて、側面 2b、2c の四つ折面 2b2、2b3、2c2、2c3 を折り曲げ、側面 2d (収縮側面) をこれと対向している側面 2e (固定側面) 側に向って移動させて側面 2b、2c の折り曲げが可能となり、ペット用ケース 1 を車載用の大きさから持ち運び用の大きさに変更する場合の作業の容易化を向上させることができる。なお、以上のように持ち運び用の大きさに変更したペット用ケース 1 を、車両の座席に固定する使用状態の大きさに変更する工程は、ペット用ケース 1 を車両の座席に固定する使用状態から持ち運び用の大きさに変更する工程と反対の工程を辿ればよい。

10

【0049】

次に、本考案によるペット用ケース 1 を完全に折り畳む工程について説明する。図 1 及び図 6 に示すように、ペット用ケース 1 の箱体 2 について、側面 2b (右側面) の折目部 2b5 は折り曲げずに折目部 2b4 を谷折りにして、二つ折面 2b1 及び四つ折面 2b2、2b3 を箱体 2 の内側に折り曲げる。同様に、折目部 2b5 と対向する側面 2c (左側面) の折目部 (図示せず) は折り曲げずに、折目部 2b4 対向する側面 2c (左側面) の折目部 (図示せず) を谷折りにして二つ折面 2c1 及び四つ折面 2c2、2c3 を箱体 2 の内側に折り曲げる。このようにしてペット用ケース 1 の側面 2b (右側面) 及び側面 2c (左側面) を折り畳むと、図 6 に示すように、箱体 2 は完全に折り畳まれた状態となる。この場合、中敷 4 を折曲部 46 を展開させた状態で、完全に折り畳まれた箱体 2 内の側面 2e 側に挿入すれば、箱体 2 と中敷 4 とを一体的に収納可能となる。したがって、ペット用ケース 1 を車内において使用せず収納しておく場合は、前記手順に従って完全に折り畳むことにより、収納場所の省スペース化を図ることができる。

20

【0050】

【考案の効果】

以上説明したように、本考案のペット用ケースによれば、箱体の側面の折面を展開することにより、持ち運び用又は車載用のいずれの用途にも応じた大きさに変更することが可能であり、持ち運びをする場合は持ち運びの便宜上コンパクトな大きさにして使用し、車両の座席に載置する場合は運転速度やペットの動きによっても揺動しない安定した大きさにして使用することができる。

30

【0051】

また、本考案のペットケースを座席に固定する固定部材を、固定側面側に設けたので、固定側面と対向する収縮側面を固定側面側に向って移動させて側面 2b、2c の折り曲げが可能となり、ペット用ケース 1 を車載用の大きさから持ち運び用の大きさに変更する場合の作業の容易化を向上させることができる。

【0052】

また、本考案のペット用ケースによれば、中敷に折曲部を設けたので、箱体を持ち運び用又は車載用のいずれの大きさに変更した場合であっても、箱体の大きさに対応して中敷を折り曲げて装着することが可能である。

40

【0053】

また、本考案のペット用ケースによれば、中敷に補助シートに係合するための係合部を設けたので、補助シートを中敷に係合させたまま箱体に装着でき、ペット用ケースの内部の汚損を防止できる。

【0054】

また、本考案のペット用ケースによれば、天面が箱体の収縮側面と結合しているため、箱体を折り畳んだ状態又は展開した状態のいずれにおいても、天面の着脱が容易である。

【0055】

【図面の簡単な説明】

【図 1】 (a) は、本考案によるペット用ケースの側面の総ての折面を展開して箱体の大

50

きさを大きくしたペット用ケースと中敷の組み合わせ状態を示す斜視図、(b)は、本考案によるペット用ケースの右側面のA-A断面図である。

【図2】(a)は、本考案によるペット用ケースに装着される中敷の折曲げ状態を示す斜視図、(b)は、中敷に補助シートを固定する状態を示す斜視図である。

【図3】本考案によるペット用ケースを車両の座席に固定した状態を示す斜視図及び座席の背部側からみた背面斜視図である。

【図4】(a)は、本考案によるペット用ケース側面の四つ折面を折り曲げ又は展開してペット用ケースの大きさを変更する操作手順を示す斜視図、(b)は、第1の連結部材と第2の連結部材の連結状態を示す斜視図である。

【図5】本考案によるペット用ケースの側面の四つ折面を折り曲げて箱体の大きさを小さくしたペット用ケースと中敷の組み合わせ状態を示す斜視図である。 10

【図6】本考案によるペット用ケースの側面の二つ折面を折り曲げて完全に折り畳まれたペット用ケースの斜視図である。

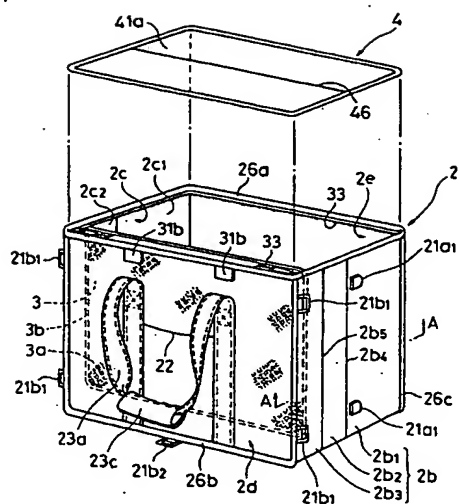
【符号の説明】

1	ペット用ケース	
2	箱体	
2 a	底面	
2 b	側面（右側面）	
2 b 1	二つ折面（折面）	
2 b 1 a	基材	20
2 b 1 b	弾性材	
2 b 2	四つ折面（折面）	
2 b 2 a	基材	
2 b 2 b	弾性材	
2 b 3	四つ折面（折面）	
2 b 3 a	基材	
2 b 3 b	弾性材	
2 b 4	折目部	
2 b 5	折目部	
2 b 1 0	被膜部材	30
2 b 1 1	被膜部材	
2 c	側面（左側面）	
2 c 1	二つ折面	
2 c 2	四つ折面	
2 c 3	四つ折面	
2 d	側面（前側面、収縮側面）	
2 e	側面（後側面、固定側面）	
3	天面	
3 a	孔部	
3 b	縁部	40
4	中敷	
2 1 a 1	第1の連結部材（保持部材）	
2 1 a 2	第2の連結部材（保持部材）	
2 1 b 1	第1の連結部材（保持部材）	
2 1 b 2	第2の連結部材（保持部材）	
2 2	ポケット	
2 3 a , 2 3 b	吊り部	
2 3 c	握り部	
2 4	係留部材	
2 4 a	带状部材	50

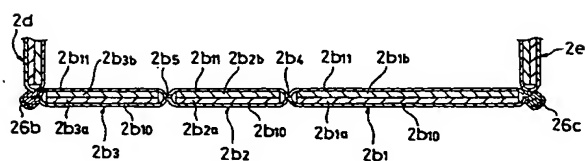
2 4 b	連結部材	
2 4 c	調節部	
2 5	シートベルト挿通部（固定手段）	
2 6 a	補強縁部	
2 6 b	補強縁部	
2 6 c	補強縁部	
3 1 a	第 1 の天面係合部材	
3 1 b	第 2 の天面係合部材	
3 3	天面着脱部材（ファスナ）	
4 1	中敷本体	10
4 1 a	中敷本体表面	
4 1 b	中敷本体裏面	
4 2 a	折返部	
4 2 a 1、4 2 a 2	ポケット	
4 2 b	折返部	
4 2 b 1、4 2 b 2	ポケット	
4 3 a、4 3 b	基材	
4 4	補強縁部	
4 5	係合部材	
4 5 a	第 1 の係合部	20
4 5 a 1	舌片	
4 5 b	係合部	
4 5 c	第 2 の係合部	
4 6	折曲部（縫合部）	
5 0	座席	
5 0 a	座部	
5 0 b	背部	
5 0 c	頭部	
5 1	シートベルト	
5 1 a	肩側ベルト	30
5 1 b	腰側ベルト	
5 1 c	固定金具	
6 0	補助シート（吸水シート）	

【 図 1 】

(a)

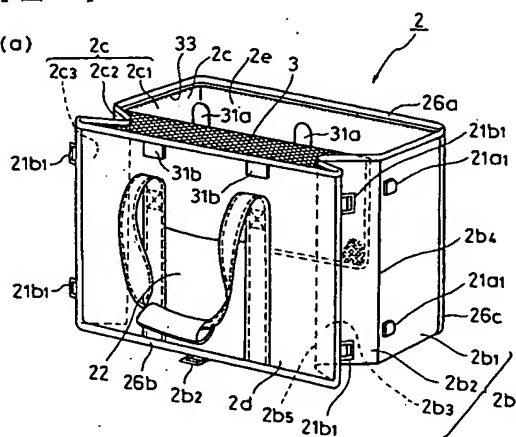


(b)

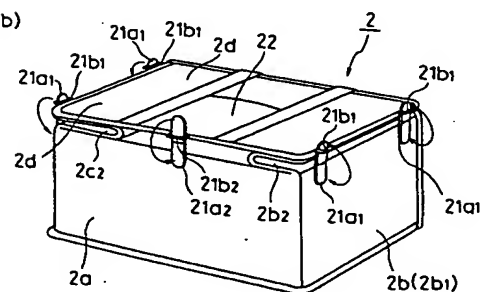


【 図 3 】

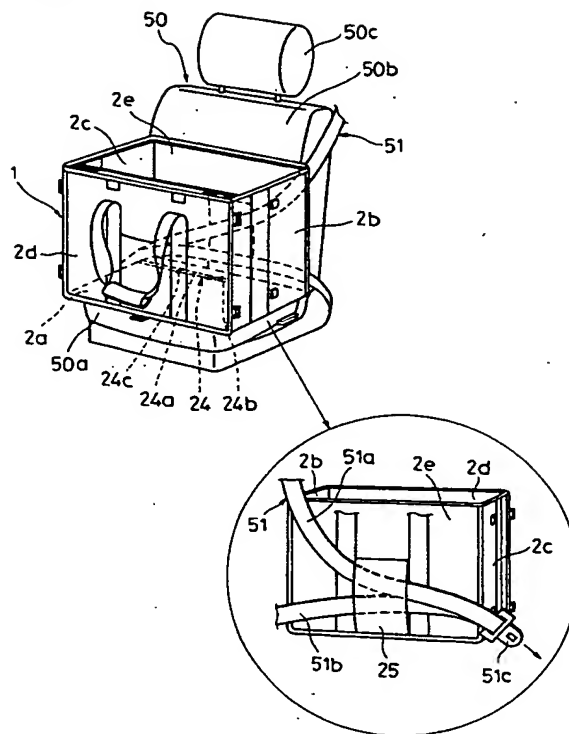
(a)



(b)

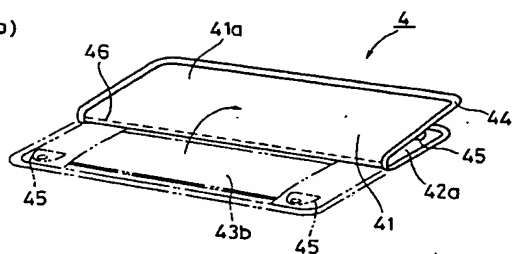


【 図 2 】

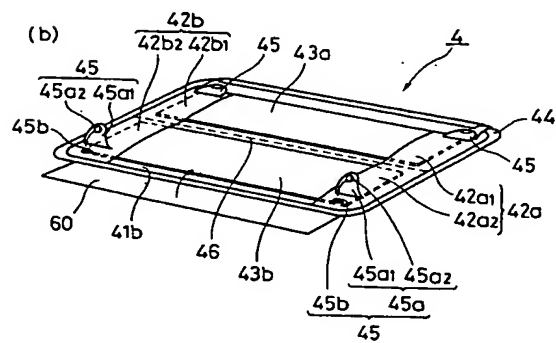


【 図 4 】

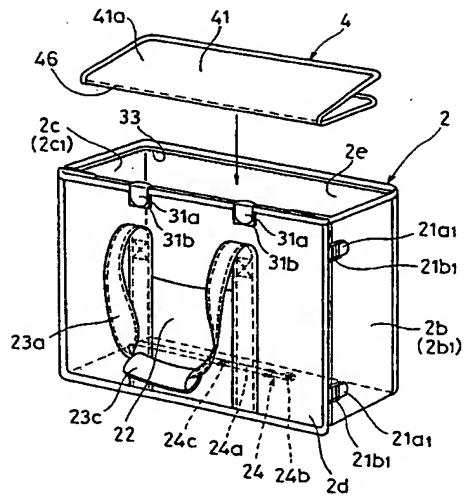
(a)



(b)



【 図 5 】



【 図 6 】

